

(参考)
実際の進め方

山口県

○基本資料に沿って説明・進行することで、必要な検討が可能(地域の状況に応じて修正)

率先避難・呼びかけ避難体制づくり



率先避難・呼びかけ避難体制づくりの進め方



山口県



避難所運営の手引き作成 (詳細版・簡易版)

【詳細版】

避難所運営の手引き作成研修資料 (山口県)

- 避難所運営の手引き作成や、地域で避難所運営を考える学習会等でご活用ください。
- 検討項目は、避難所や地域の状況によって変更してください。
- 特に重要なレイアウトや役割分担を中心に検討する場合は、資料をコンパクトにまとめた「**簡易版**」をご活用ください。

【簡易版】

避難所運営の手引き作成研修資料 (山口県)

- 本資料は、特に重要なレイアウトや役割分担を中心に検討する場合は、「**詳細版ガイドライン**」をご活用ください。
- 避難所運営の手引き作成や、地域で避難所運営を考える学習会等でご活用ください。
- 検討項目は、避難所や地域の状況によって変更してください。

ポイントをしばった検討をする場合は【簡易版】

率先避難・呼びかけ避難体制づくり

○一般的な進め方は、次のとおり。

事前打ち合わせ → 住民説明会 → 避難体制づくり → 体制づくり完了

1 事前打ち合わせ



- 【目的】 地域の役員等と今後の進め方等を確認
・地域のリスク ・住民説明会の開催方針 ・連絡体制
- 【参加者】 地域の役員等、アドバイザー
- 【役割分担】 アドバイザー：概要や支援方針等の説明
地域：会場準備、参加者案内 等

2 住民説明会



- 【目的】 地域のリスクに応じた体制づくりの進め方等を確認
・必要性 ・ハザード ・情報収集 ・体制づくり
- 【参加者】 地域住民、アドバイザー
- 【役割分担】 アドバイザー：説明会の進行、説明、資料準備
地域：会場準備、参加者案内 等

率先避難・呼びかけ避難体制づくり

○避難体制づくりや、訓練は地域主導で行う。(アドバイザーは必要に応じて、フォロー)

3 避難・連絡体制づくり

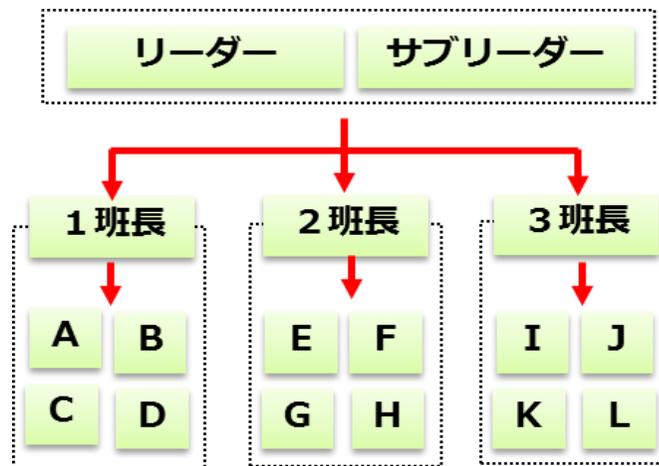
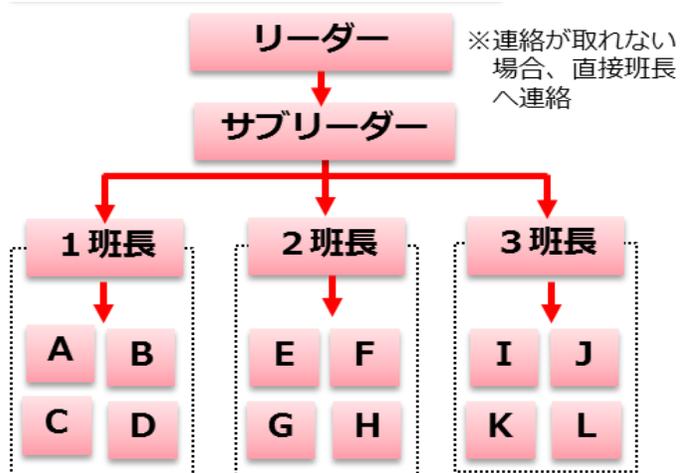
リーダー→サブリーダー→班長

負担軽減、迅速な対応のため、
リーダーとサブリーダーが声掛け

【体制づくり】

○住民説明会を踏まえ、地域で体制づくり(連絡網の作成等)を実施

○アドバイザーは、適宜、フォロー



4 訓練



【目的】

作成した体制に基づき、避難訓練を実施

【参加者】

地域住民、アドバイザー(必要に応じて)

【内容】

- 1 リーダーが避難開始を連絡
- 2 連絡網等に基づき、呼びかけ避難を開始(避難場所で受付)
- 3 訓練の振り返り(改善点等議論)

各地区の状況

1 説明会の開催状況

○事前打ち合わせ(例)

- ・回数: 1回(60分程度)
- ・対象者: 地域の役員
- ・打ち合わせ事項: 住民説明会の進め方、出席者等

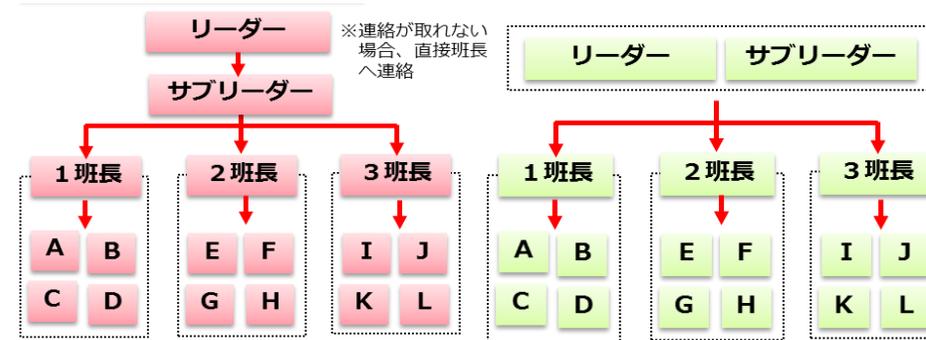
○住民説明会(例)

- ・回数: 1回(90分程度)
- ・対象者: 地域住民(災害リスクの高い地域にしぼる例もあり)

2 避難体制図

○参考例は右のとおり

○1グループの世帯数が多くなりすぎないように編成



3 リーダーの選定状況

○体制整備完了済みの17地域の主な内訳。

○役職の重複があるため複数計上あり。

リーダー	選定状況
自主防災組織役員	8
自治会役員	8
自治会班長	9
防災士	1

4 声掛けの方法等

- 体制整備完了済みの17地域の主な内訳
- 電話連絡網と訪問の両方で声掛けをする例がある。

連絡方法	選定状況
電話連絡網	17
LINEグループ	2
訪問のみ	3

5 エ夫した点など

- リーダーの負担が大きくなるように、自治会長・副会長・防災委員の3者で連絡を開始する体制とした。
- 自治会長(リーダー)は1年で交代するため、サブリーダーを一定期間固定することで、切れ目のない体制とする。サブリーダーは市のメールサービスに登録し、速やかに対応できるようにする。
- 訓練を実施した上での気づき等
 - ・LINEなどのアプリを活用し、迅速に情報伝達・共有を実施
 - ・電話だけではなく、声掛けも必要
 - ・防災担当者を複数年の任期とするなどの対応を検討中

活動にあたって(令和元年度の取組を振り返って)

番号	区分	状況等	対応の視点等
1	良かった点	過去の地域の災害写真を示しながら進行することで、住民の我が事意識が高まる。説明会の議論も活発になる。	地域に写真の準備等を依頼(スクリーンで投影) 災害教訓事例集の活用を検討
2	注意が必要な点	説明会の出席者は高齢者が中心。PCやスマートフォンの使用に不慣れな方が多い。	ラジオ、テレビのdボタンの活用による情報収集を紹介。
3	良かった点	地域の既存の連絡網や、班分け等を活用することで、体制づくりが円滑に進む。また既存の枠組み(見知った仲)を活用することで、実際の声掛けなども進めやすい。	既存の枠組みの活用を働きかける。ゼロから新しい連絡体制を作ることにはこだわる必要はない。
4	良かった点	何故、率先避難体制づくりが必要なのかを丁寧に説明することが大切。	平成30年7月豪雨などの事例(早めの避難の大切さ、声掛けの大切さ)を丁寧に説明する。 ・ハザードマップは信頼性あり ・避難のきっかけは、地域の声掛け
5	注意が必要な点	声掛けのリーダーが、責任が重すぎると受け止める場合がある。(常に地域にいなければならないなど)	複数のリーダーを設置することで、負担の分散を図る。

活動にあたって(令和元年度の取組を振り返って)

番号	区分	状況等	対応の視点等
6	注意が必要な点	「～の問題が解決しないと議論ができない」など、完璧な体制づくりを追求するあまり、議論が進まない場合がある。	まずは体制をつくる、みんなで早めに避難する意識を持つといった基本的な部分を確実にすることも大切。訓練を重ね、体制を見直すことも考えられる。 集まって議論しなければ、このような課題も出なかった。それを共有したことも成果の一つ。
7	よくある質問	地域はすべてが危険な地域。どこに避難すればいいのか。	早めの避難をすることで、地域外の安全な場所、リスクの少ない知人・親類の家などに避難することも考えられる。 避難が遅くなればなるほど、避難する場所が限られる。ハザードの状況を踏まえた垂直避難も避難。
8	よくある質問	一部の住民に、「私は避難しない。声をかけないでいい」という方もいる。そんな人にどのように対応したらいいだろうか。	例えば、声掛けの際、「あなたを心配して助けに来る人もいます。その方が被災することもあります。あなたを心配するその方のためにも、避難しましょう」といったお願いをすることも考えられる。 ※説得に時間がかかる場合、家の安全な場所への避難を誘導。
9	地域の取組	避難場所への避難が危険な場合に安全を確保するため、堅牢な構造かつ2階以上に避難が可能なホテル・旅館に緊急時の一時避難について了解を得た。	緊急時における地域の一時避難場所を確保することも考えられる。

やまぐち防災学習館(避難所運営の手引き作成)

- 地域住民による自主的な避難所運営ガイドラインの内容に沿った資料
- レイアウトや役割分担など、特に重要となるポイントを中心に検討する「簡易版」を作成

①地域住民による避難所運営の必要性

- ・熊本地震の事例
- ・手引きや運営体制の有無による違い

②避難所開設・運営の流れ

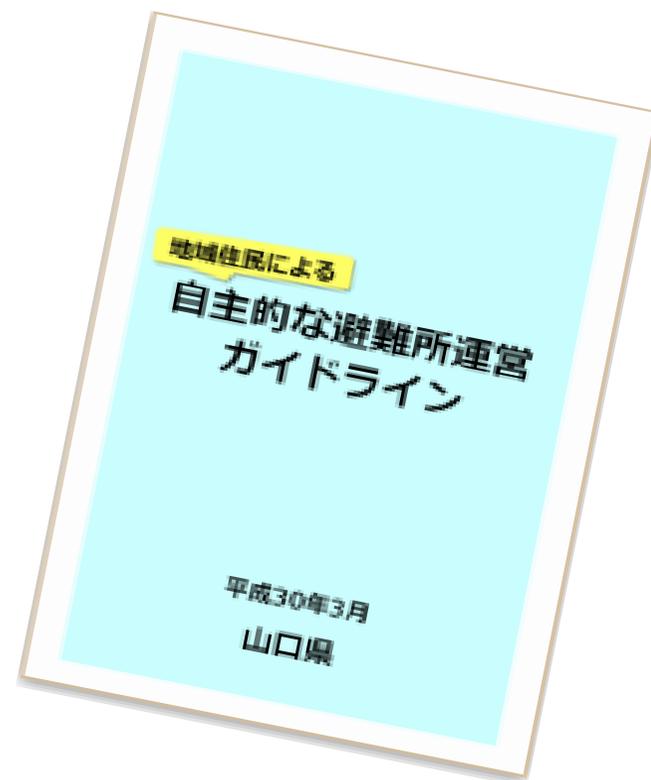
- ・開設運営の流れ

③レイアウトの検討

- ・レイアウト(避難所のスペースの使い方)

④役割分担や避難所の生活ルール・注意事項

- ・必要な役割
- ・生活のルール
- ・トイレの使い方



避難所運営の手引き作成研修

○一般的な進め方は、次のとおり。

事前打ち合わせ → 手引き作成研修会 → 手引き作成 → 避難所備え付け・地域で共有

1 事前打ち合わせ



- 【目的】 手引き作成の進め方や施設のレイアウト等を確認
・研修会の開催方針 ・立入禁止エリア等の確認
- 【参加者】 施設担当者、市町避難所担当、アドバイザー
- 【役割分担】 アドバイザー: 概要や支援方針等の説明
施設、市町: レイアウトや避難所開設方針の説明

2 研修会



- 【目的】 避難所の運営の手引きを作成
・必要性 ・レイアウト ・ルール ・役割分担
・施設も実際に確認
- 【参加者】 地域住民、施設担当者、市町避難所担当、アドバイザー
- 【役割分担】 アドバイザー: 研修の進行、説明、資料準備
施設、市町: 会場準備、参加者案内、地域とのつなぎ

進行のポイント

○レイアウトの検討が、特に重要となります

- ・施設をどのように使用するかを、図面上、施設を見ながら確認
- ・レイアウトを考えることで、避難所に運営に必要な点も議論が進みます

議論が止まることもあります。基本資料の検討項目を参考に、適宜、「受付はどうしますか」「物資を置くスペースはありますか」などと、項目を示してください。

施設を見学し、レイアウトを見直すことも大切です。

参加者で議論・施設を確認



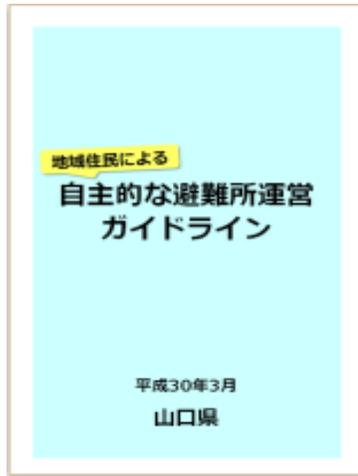
レイアウト図



避難所運営の手引き作成研修

- 研修会の後、**地域・施設・市町避難所担当**で、**手引きを完成させる**((アドバイザーは必要に応じて、フォロー))
- 手引きが完成した場合、**避難所に備え付けるとともに、地域住民に周知**

手引き完成



【簡易版】

避難所運営の手引き作成研修資料 (山口県)

- 本資料は、特に重要なレイアウトや役割分担を中心に検討する資料です。より詳細な検討をする場合は、「詳細版」や「地域住民による自主的な避難所運営ガイドライン」をご活用ください。
- 避難所運営の手引き作成や、地域で避難所運営を考える学習会等でご活用ください。
- 検討項目は、避難所や地域の状況によって変更してください。

- 研修会の検討事項、決定事項を書きこむことで手引きは完成

完成後

- 手引きは、避難所に備え付けましょう
- レイアウトは張り出しましょう
- 訓練を行い、改善点があれば、その都度修正しましょう

